育成 モノづくり人材 Vol. 18

岡山県立高梁城南高校

来年度に「ロボットコース」

岡山県立高梁城南（たかはしじょうなん）高校は工業系である電気科とデザイン科、商業系の総合情報科、農業系の環境科学科の4学科に生徒が406人。うち約4割を女生徒が占める。モノづくりから流通まで含む幅の広い学科構成は2004年、高梁市内の高梁工業高校と川上農業高校、成羽高校の3校を再編したことによる。各学科の特色は尊重しながら「ミッションとしての『人間づくり―夢づくり』を大切にした指導」（蟻正教子校長）を心がけ、全校としての意思統一を図っている。

蟻正校長

中山間地域である高梁市は少子化や人口流出などの問題を抱える。高梁城南高の開校には、こうした背景がある。地域を支える人材の育成という使命を担いながらも、生徒集めには厳しい状況が続く。学校の選択肢が少ない環境下では、消去法で同校へと進むケースがある。あいまいな気持ちで入学した生徒に、学びの動機付けを行い、将来のキャリア設計に意味ある3年間とすることも大きな課題だ。

【DATA】▷校長＝蟻正教子氏▷所在地＝岡山県高梁市▷学科構成＝（工業系）電気科、デザイン科、（商業系）総合情報科、（農業系）環境科学科▷生徒数＝406人▷主な実習設備＝高電圧実験装置、模擬送電装置、照明実習室、電動発電機▷主な進路＝関西電力、中国電力、中電プラント、トヨタ自動車、神戸製鋼所、ＪＦＥスチール、中電工、ＪＸ日鉱日石エネルギー、ＪＲ西日本、三井造船、岡山理科大学、広島工業大学、中国職業能力開発大学校など

蟻正校長は生徒に「いっぺん本気になってみよう」と呼びかけるものを見つけ、取り組むことで、「前向きに社会で活躍できる人になってほしい」という願いを込めている。

同校では授業や部活など日常のさまざまな局面で積極的に表彰の機会を設けている。小さな目標をクリアしていくことで自己肯定感を高め、誇りを持たせるためだ。また、インターンシップやロボットコンテストなどへの参加にも力を入れ、生徒の自己実現に役立てようと努めている。

第23回全国高等学校ロボット競技大会では県代表に選ばれた（写真は県大会）

16年度からコース制を導入する。名称は思い切ってわかりやすく、例えば電気科なら「エネルギーコース」「ロボットコース」となる予定。専門性を高めるとともに見える化を図り、生徒や親はもちろん、誰からも魅力的な高校を目指す。

（岡山支局長・浅田一朗）

（金曜日に掲載）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社